

高等部 木工グループ 作業学習指導案

1. 単元 『バザーに向けて製品を作ろう』

2. 指導についての考え方

○生徒の実態

本グループは、1年生〇名、2年生〇名、3年生〇名の計〇〇名（男子〇名、女子〇名）で構成されている。障がい種は多種にわたり、精神面でのケアも必要な生徒が多く、さまざまな課題もあるが、4月からの取り組みで、切断・はりあわせ・みがき・組み立てなどの基本的な工程をおぼえて、製品作りへの意欲が高まってきている。しかし、生徒の興味・関心が多様で集中力・持続力などを含めて木工の技能も多岐にわたっているため、個に応じた支援の工夫が必要と考える。

○単元設定の理由

木工作业では、木材を加工することによって、木の感触や木の匂い及び作業工程の中で、木の変わりゆく様子や製品が完成した時の達成感を味わうことができる。また、木は材質的に加工しやすく、私たちの生活の中で身近にある物であり、木の本質を知るのによい機会にもなっている。

生徒たちは1学期の箱椅子作りを通して、木工の基本的な工程をおぼえてきた。その中でビデオを観ながらの振り返り授業で生徒自身が「報告や質問をしよう」「集中しよう」「みんなと働こう」などこれからの課題を考えることができた。そこから自分自身の課題を見つけ出し、「バザーに向けてがんばろう」とグループ全体の目標や意欲づけもできた。また、木工製品作りではお互いの協力が必要であり、それぞれの工程の作業責任を持つことで一つの製品を完成できると考える。その中で自分の興味・関心を持つ作業の技能を高められると考える。

○支援にあたっての考え方

学習内容の工夫

- ・一連の作業工程経験後は、作業の進行に合わせ、個に応じて興味・関心を持つ作業内容を選択できるようにする。

学習集団の工夫

- ・作業前に、前黒板に座席表を提示して、その日の作業チーム・作業台・指導教師を確認する。

学習環境の工夫

- ・生徒が主体的に活動できるように、声かけは少なくする。
- ・道具置き場に写真カードを提示し、生徒が自分で道具の準備・片づけができるようにする。
- ・生徒が見通しを持って自分で作業を進められるように、写真カードを提示する。
- ・固定具や補助具を使用し、切断や磨き、組み立てなど安全に作業を行うようにする。

3. 単元目標

- ・木工製品を製作することによって、完成した時の喜びや達成感を味わう。
- ・「切断」「はりあわせ」「みがき」「組み立て」などの作業工程の意味や目的を理解し、見通しをもって作業に取り組む。
- ・作業に必要な工具・道具類を安全に使用する。
- ・作業を通して、人と協力する態度を養う。

4. 生徒の実態と目標

	A男 (〇年)	B男 (〇年)	C女 (〇年)
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて作業に取り組むことができる。 ・適切な言葉で、要求や状況の報告ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や作業終了の報告ができる。 ・集中して作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に集中して、丁寧に製品を作る。 ・安全に気をつけて、道具や工具を正しく使うことができる。

単元に関わる実態	①必要な用具の準備	A ㊸ C -	A ㊸ C -	㊸ B C -
	②木材の切断	A ㊸ C -	A ㊸ C -	A ㊸ C -
	③はりあわせ	A ㊸ C -	A B ㊸ -	A ㊸ C -
	④みがき	A ㊸ C -	A ㊸ C -	㊸ B C -
	⑤組み立て	A ㊸ C -	A B ㊸ -	A ㊸ C -
	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒が安定していない時は、必要以上に確認を求める傾向がある。 ・作業能力は高いが、活動に対しての時間配分が難しく、休憩ができず、疲れすぎて、家に帰ってパニックになることがあるので作業内容の調整が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程を理解するのに時間がかかる。 ・体力があり、作業を好む。 ・持続力がなく、すぐイスに座ろうとする。 ・板みがきの仕上がり具合を自分で判断するのに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程が理解できると自分から取り組むことができる。 ・作業工程でわからないときに質問せず、そのまま作業を続けることがある。 ・集中力が持続せず、作業が雑になることがある。 	
単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・落ちついて作業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業終了の報告ができる。 ・作業中に集中する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい製品を作ろうとする意欲を高める。 ・安全に作業をする。 	
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲を意識しすぎるので、座席の位置などを調整する。 ・今日の作業内容や活動場所など、視覚で確認できる表を準備する。 ・手順表を準備し、それを手がかりに一人で準備や作業ができるようにしておく。 ・説明する時は、文字に書いてわかりやすくしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終了報告ができるように、手順やポイントをわかりやすく伝える。 ・できあがりを確認し、自分から報告できるようにみがき板の見本を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を準備し、それを手掛かりに一人で準備や作業ができるようにしておく。 ・意欲を高めることができるように、賞賛や、励ましの言葉を適宜かける。 	

A：ひとりでできる B：ひとりでできるが、確認など必要 C：支援が必要 -：経験していない

○本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分の分担がわかり，安全に作業ができる。

(2) 展開

	めざす姿	評価の観点
A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数のはりあわせができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に準備された部材のはりあわせができる。
	学習内容と活動	支援の工夫
	<p>*エプロン，マスク，帽子を着用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつをする。 2. 作業内容と分担を知る。 3. 作業の準備をする。 4. 作業を開始する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 作業工程を確認する。 ② 板の側面にボンドを塗る。 ③ はりあわせる。 (繰り返し) ④ 報告する。 <ol style="list-style-type: none"> 5. 後かたづけをする。 6. 清掃をする。 7. 本時のまとめをする。 8. あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の作業をひき続きおこなうことを伝える。 ・担当する工程，作業場所を表で提示し，わかりやすくしておく。 ・作業の手順がわかるように，工程表を準備しておく。 ・今日の作業量がわかるように，必要量の部材を棚に入れておく。 ・ボンドを塗る面には鉛筆で印を付けておく。 ・正しく板の繊維方向を張り合わせられるように見本を準備する。 ・目標数できたら，終了の報告をして，休憩するかちがう作業をするか選択できるようにしておく。 ・次の作業として，好きな活動（絵を描くこと）を活かした木製キーホルダー作りの作業も準備しておく。 ・休憩を選択したときは，確実にわかるように，休憩場所や休憩の時間を文字で書いて伝える。 ・確認を求めず，自分一人で開始終了できるように，掃除場所を固定しておく。 ・良い点やがんばったところを伝え，次回の作業への意欲につながるようにする。

(2) 展開

	めざす姿	評価の観点
B	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が終了した時に報告することができる。 ・手もとをみて作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業終了の判断をし、報告ができる。 ・電動サンダーで印が消えるまで、みがきができる。
	学習内容と活動	支援の工夫
	<p>*エプロン、マスク、帽子を着用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつをする。 2. 作業内容と分担を知る。 3. 作業の準備をする。 4. 作業を開始する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 作業工程を確認する。 ②みがきをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・電動サンダーによるみがき ③確認をする。 ④報告をする。 ⑤仕上げをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・サンディングブロックサンダーによる仕上げ 5. 後かたづけをする。 6. 清掃をする。 7. 本時のまとめをする。 8. あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢を見守る。 ・午前の作業を引き続き行うことを伝える。 ・今日の作業を確認するために、工程表を準備する。 ・みがき用補助板を使用し、クランプ固定ができたかを確認する。 ・電動サンダーのみがき方について手をそえて指示する。 ・みがきの見本を提示する。 ・印が消えたら手で触れ、見本と同じになっているか確認する。 ・作業中の適切な質問や報告などの仕方についてはその都度助言する。 ・できについては、具体的に評価する。 ・仕上げみがきについて指示する。 ・道具を所定の場所へ片づけたかを確認する。 ・清掃箇所を確認し、周囲に気が散らないように声かけをする。 ・生徒のよい点やがんばったところを伝え、次回の作業への意欲につなげる。

(2) 展開

	めざす姿	評価の観点
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集中して丁寧に作業を進める。 ・ 釘打ちが正しくできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組み立ての部材の角を正しく合わせることができる。 ・ 釘をまっすぐに打ち込むことができる。
	学習内容と活動	支援の工夫
	<p>*エプロン、マスク、帽子を着用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつをする。 2. 作業内容と分担を確認する。 3. 作業の準備をする。 4. 作業を開始する。 <ol style="list-style-type: none"> ①作業工程を確認する。 ② 組み立てに必要な部材の確認をする。 ③組み立てをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助具を使いながら固定していく。 ・ ボンドの接合部を確認しボンドをつける。 ・ 釘打ちをする。 ④ 報告をする。 5. 後かたづけをする。 6. 清掃をする。 7. 本時のまとめをする。 8. あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前の作業を引き続き行うことを伝える。 ・ 今日の作業を確認するために工程表を準備する。 ・ 必要に応じて道具を準備するように指示する。 ・ 組み立ての見本を提示する。 ・ 組み立て用補助具を正しく使用しているか確認する。 ・ 丁寧な作業を心がけるために、適宜声かけをする。 ・ くぎ打ちの見本を提示する。 ・ 部材が大きいので釘打ちの際は二人一組で協力する。 ・ 安全に気をつけながら作業を進めるように助言する。 ・ できについては、具体的に評価する。 ・ 道具や工具の収納場所を確認する。 ・ 清掃箇所を確認し、周囲に気が散らないように声かけをする。 ・ 生徒のよい点やがんばったところを伝え、次回の作業への意欲につなげる。